

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 花(Aユニット)	評価実施年月日	平成21年11月 1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月 1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

21.11.1Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・定期的に行なわれている運営推進会議に入居者様にも参加して頂き、意見をいただいたり、行事等に外部の方の参加を呼び掛け外部の方に意見を頂いている。また日常生活でも、不満苦情を言える環境に気を配っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	・ご家族様に、担当介護員からの生活状況や心身の状態を伝える便りを毎月出している。また金銭出納帳の写しと領収書も併せて送付している。 ・急な心身の異常などは、必要に応じ電話で都度伝えている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様と施設とのより良い関係を築くため、家族会の開催や来訪時の話し込み等を行い、改善点は都度職員で話し合い改善している。また良い点についても職員に伝え意識の向上に努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・勤務についても状況に応じ柔軟な対応をしている。 ・状況に応じそれぞれのユニットが協力し合っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の介護員の移動は極力少なくしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中などリフレッシュできる環境で過ごしている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>・運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。 ・資格取得者には表彰制度を導入した。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居の初期は、ご本人が困っていることや求めていること、心配ごとなどを、度々ご自身からお聞きする機会を作り、受け止め、少しでも不安が解消出来るように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居当初は、ご家族からも、不安や心配なこと、特に気に留めてケアしてもらいたいことなどをお聞きしている。面会ごとに、ご本人の状況をお伝えし、ご家族からも相談出来るような雰囲気づくりに気をつけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期相談を受けた際、何を必要としているのか、お話を聞き、その状況を観察し見極め対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居したばかりの時期は、不安や心配なことが多く、常に落ち着かない心境と思われるので、少しでも早く、安心して生活を送っていただくために、注意して関わりを持ち、声掛けを多くして、その都度心配ごとを話せる状況を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の作業(掃除、食事作り、後片付け、洗濯干し、洗濯物たたみ)や野外活動(畑、散歩)を通じてよい関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご家族様とは、面会時や問題発生時には電話を含めて話し合う機会を設けている。 ・月一回ご家族様に近況報告として行事や出来事の便りを発送している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・月一回ご家族様に近況報告として行事や出来事の便りを発送している。(入居者様の精神的な動き、受診状況、生活状況などを個別に報告)		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・面会等でご家族様やご友人の方が来訪した時は過ごしやすい環境を提供するよう心掛けている。 ・年賀状や電話を使い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・各入居者様の性格を把握して、皆さんと一緒に過ごせる雰囲気作りを支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなったり退去した入居者様やそのご家族様の皆さんと交流があり、良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各自の希望を取り入れたケアプランを作成している。困難な場合はご家族様と検討したり、日常生活の中から見つけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者個人情報ファイルに生活歴などが整理されており、追加情報についてもその都度閉じられており、いつでも閲覧できるようになっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日表情や疎通性を観察するとともに、バイタル測定や排便などを把握し、スタッフ間で情報を共有してケアに結び付けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人がどのように生活したいのか、また、どんなことで困っているかお話を聞いたり状況を観察して、スタッフと話し合いをして、プランを作成している。ご家族には、面会の都度、ご意見や要望、心配ごとなどをお聞きして、プランに取り込めるようにしている。		

21.11.1Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎朝の申し送り、カンファレンスなどの中で、問題点を話し合い、また、担当スタッフと話し合いを重ねて、現状に合ったプランへの変更をかけている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子や毎日の生活状況を介護記録に記載し、他スタッフと情報を共有したり、特に変化があった時は、申し送りにて口頭で伝えたりして、重視している点については都度評価を実施してケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事業所独自のサービスを重視しているが、入居者様やご家族様が希望された時には検討するが、現在要望はない。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		

21.11.1Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	2週間に1度の往診がある。それ以外に入居者様が体調不良の時に、往診していただき、または、電話で相談に乗っていただいている。体調不良で相談した後も、電話でその経過を連絡し、入居者様の健康管理に努めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ病院と連携し、入居者様の認知症状について変化があり、精神面で困っている事があったり、生活面に支障をきたす事があれば、その都度相談し、状況に合わせて認知症専門医へ受診をしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師の訪問があり、入居者様の普段の様子を見ていただいている。生活の中での健康に関する相談、体調不良時の医師への連携への支援をしている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	できる限り入院先に足を運び状況把握に努めるとともに、ご家族様、医師、看師、SWと話し合い、情報交換と早期退院に向けての協議をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、状況に応じご家族様や医療機関と話し合う機会を設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した入居者様はまだいないが、全スタッフで研修を積み、いずれ重度化に対応出来るように準備をしたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームから別の施設へ移る場合、施設の関係者との間で、何度も十分な情報交換を行い、ケアが連続して行えるように配慮した。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>皆さんの前で話せないことは、居室で話すなどプライバシーに配慮するよう心がけている。又羞恥心に配慮した言動にも心掛けている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の中で観察し、コミュニケーションを取り、思いを聞き出し希望に添えるようにする動きに心掛けている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日常生活に乱れでないよう見守っている。又入居者様の希望を優先しペースを大切にしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・毎朝身だしなみのチェックをしている。 ・月一回は理美容の支援をしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・週1回特別メニューとして、入居者の皆さんと食べたい物を決めて一緒に買いに行き一緒に準備して食事をする機会を作っています。 ・その日のメニューで、嫌いな物・食べられない物に合わせて別メニュー準備します。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・時々散歩しながら、近所のコンビニやスーパーに買い物にでかけます。 ・お酒は希望があれば提供しています。 ・好みのおやつも希望があれば検討して提供しています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮した誘導に心掛けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入浴とシャワー浴を週3回づつおこなっている。 ・入浴時間や順番の希望を聞き入居者様の希望に沿うようにしている。また体調にも十分配慮している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様は日中自由に過ごしているが、体操や生活にまつわる作業など活動性を持たせ、よるの安眠を確保するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物や食事作り、畑の手入れやの収穫など、普段の生活に入居者の皆さんがそれぞれ楽しみを見つけています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・行事で外出する時に、個人個人のお財布を持っていただき、好みのものを買えるように配慮している。その方の理解力を考えて、希望が叶えられるように支援している。 ご本人様が金銭の所持を望まれる方は、ご家族様の理解の上で金銭管理をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物に行く機会を作っている。また希望があればスタッフと一緒に近くのお店に行ったりもする。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・お墓参り、買い物、外出外泊などご家族様と一緒に出かけをしていただいている。また特に要望があれば個別に支援する事もある。 ・行事の中に外出の支援も交えている。		・家族も参加する外出行事を今後も企画していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	・電話自由に使ったり、繋いだりしている。 ・手紙や年賀状はできるだけ自筆で書いていただき、書くことが困難な方には代筆で出しています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	希望に合わせ場所を提供し過ごしていただき、飲み物や、時間帯に応じてはおやつも出しています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・勉強会での意識向上を図り、参考資料が閲覧できるような環境を整え、身体拘束のないケアをしている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵をかけることはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中は人数確認やプライバシーに配慮しながら所在確認をしている。 ・夜間は2時間おきの巡回を行っているが、入居者様の状況に応じて適宜対応している。 		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理簿を使い、使用の際は、持ち出しと返却を数と日付を記入して、行方が判らなくなるよう注意を払っている。 ・危険物(刃物火器類)等は、基本的に施設側で預かる事となっているが、各入居者様のレベルに合わせて、ご本人からの希望や必要に応じて使用して頂くようにしている。 		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・月一度会議にて事故報告やヒヤリハット報告の検証を行い再発防止に努めている。 ・緊急対応マニュアルの作成、熟読促し、勉強会の実施により、危機管理向上に努めている。 		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応マニュアルができておりその指示に従い行動することになっている。また勉強会を行い、緊急時への対応に備えている。 		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回避難訓練を実施している。 		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットが起きた時、その対応について考え、スタッフに周知して実施している。期間ごとの評価を行っている。家族には、その面会時に状況を説明している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・納入される食材の検品により、不良品の確認・除去を行い、毎日のキッチン内掃除と、調理器具の消毒を行い、チェック表に記入する事で失念を防止している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・敷地内入口付近には花畑を設け、玄関先にも花壇をつくり、親しみやすい環境作りを実施している。 ・玄関はバリアフリーでありどなたでも安心して出入りができる。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・オープンキッチンにする事で、調理中の生活音が、自然に聞こえる環境を整えている。また、不必要にテレビをつけるのでは無く、入居者様が求める物を提供出来るよう、スタッフは配慮している。また毎月行なっている、季節にちなんだ行事で撮影された写真を、居間や廊下の壁にはり、入居者様やご家族の方へも見てもらえるようにしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・入居者様は自由に行動していただき、入居者様同士で居室を行き来するなど過ごされている。 ・リビングの食卓テーブルスペースとソファースペースの他、玄関近くにも落ち着けるスペースを設けている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時にはご家族様の協力を頂き、本人の使い慣れたもの(寝具や食器類等)やお好みのものを持ってきてもらっている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・各居室や居間に温・湿度計を設置し、入居者様の体調や訴えを考慮しながら、温・湿度管理を行なっている。また、24時間換気設備を整えており、状況に合わせて使用している。		

21.11.1Aユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>1階のテラスについては、数回の活用にとどまった。来年は、夕涼みなどで、夏の夜を味わえるように取り組みたい。</p>

.サービスの成果に関する項目		Aユニット
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		Aユニット
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・行事を多く行い、入居者様にたくさん楽しんでいただけた。
- ・今年も地域の方々とのつながりを少しずつ深める事が出来た。
- ・夏場の畑活動と収穫は、入居者様が季節を感じ、五感へ働きかけるものとなった。
- ・入居者様と職員が、よいつながりを持ち、毎日ご本人のペースで、楽しく過ごせるグループホームです。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 花 (Bユニット)	評価実施年月日	平成21年11月 1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月 1日

北海道

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	・年一回理念についての勉強会を開き、指針の明確化、理念を基にした各自の取り組みを明確にしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・毎日朝・夕のミーティングで読み上げています。 ・毎月のスタッフミーティングにて、「理念の理解」の為にスタッフ間で話し合いの時間をもっています。 ・理念をもとに、一か月の目標を掲げて取り組みをしています。(Bユニット全体) 振り返りレポートを書いて、スタッフミーティングにおいて発表して互いに評価し合っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催、家族会の開催、町内会の参加、地域ボランティアへの参加により、施設、家族、地域の方々との交流を通じ、互いの想い、考えを理解する機会を作り、理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・当施設での行事夏祭りや、七夕祭りなどご招待して顔なじみになれるような機会を作り努力をしています。 ・散歩などで行き合った際には、入居者様とともに、気持ちの良い挨拶を心がける様に指導しています。 ・町内地区の行事には、積極的に入居者の皆さんと参加し、なじみの関係が出来る様に努力をしています。 ・社共主催の行事にも、会場提供をしたり又参加したり努力をしています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・町内会の新年会、花見、総会など地域の行事に参加している。また今期は班長を務めた。 ・入居者の方々は地域貢献ボランティアに参加したり、近所のお店を利用し買い物や美容室などを楽しんでいる。 ・地域への情報発信として認知症講座を開催した。		
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の開催、地域ボランティア、地域行事への参加により、地域の方々と交流をすすめ、互いの想い、考えを理解する機会を作るように努めている。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>意義を理解し、会議や勉強会を通じて改善を図っている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議では、行事についての説明や、日ごろの入居者様の現状や取り組みを説明するとともに、委員の方の意向により開催日を行事開催日に行い、会議に参加していただく入居者様だけではなく、入居者様全員の姿を見ていただくようにしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>旭川市に対して、分からない点、疑問点を放置せず確認するよう心掛け、報告事項も正しく行っている</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>・法律家への相談や研修への参加により学ぶ機会をもち、勉強会も開催している。 ・必要性がある入居者様について、施設長を中心に各ユニット役席が話し合うことにしている。 ・必要性があればご家族様と話し合うことにしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・毎月1回の勉強会予定の中に取り入れ勉強する機会をもち、勉強会を通して虐待においての自己評価を行って、取り組みをしています。 ・入浴時には、全身の状態(あざ、傷)の有無を観察し結果報告を聴いて、確認しています。 ・ケアの中で、あざ・傷を発見した際には、管理者と施設長へ必ず報告するシステムを守っています。 ・ケアの方法、言葉づかいや、たち振る舞い、声のかけ方について気づいたり気になったりした際には、そのつど指導を行います。 ・スタッフの疲労感、仕事面での精神状態を把握する為、時々面談を行っています。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い理解・納得を図るとともに、その後についても話しやすい環境提供に努めている。</p>		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・ご本人、ご家族からの意見・不満・苦情を含めて得た情報は全て施設で検討しています。</p> <p>・ご家族の面会時には、必ず近況のお話をさせていただきます。その中で、最近気になること、心配に思っていること、ご本人から聞いたことなどを、お話して頂ける様な信頼関係を築く努力をしています。</p>		<p>・ご家族とのコミュニケーションを円滑にする為の信頼関係を深められる努力を続けていきたいと考えています。</p> <p>・良いことも悪い事も遠慮なく話してもらえる関係を目指したいと思いません。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>・ご家族様に、担当介護員からの生活状況や心身の状態を伝える便りを毎月出している。また金銭出納帳の写しと領収書も併せて送付している。</p> <p>・急な心身の異常などは、必要に応じ電話で都度伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族様と施設とのより良い関係を築くため、家族会の開催や来訪時の話し込み等を行い、改善点は都度職員で話し合い改善している。また良い点についても職員に伝え意識の向上に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日朝夕の申し送り時や月一回の全体会議等で職員の意見を聞き、業務に反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>・勤務についても状況に応じ柔軟な対応をしている。</p> <p>・状況に応じそれぞれのユニットが協力し合っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>ユニット間の介護員の移動は極力少なくしている。</p>		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>全体会議、事例検討会、内部研修を月に一度づつ開くとともに、外部研修も参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・他グループホームの運営推進会議に出席し意見交換の場を設けている。 ・外部組織主催の研修会を通じ、他施設との交流を図っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、休憩時間には隔離された休憩室や個人の車の中などリフレッシュできる環境で過ごしている。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>・運営者が会議や申し送り等に参加し、職員の状況を把握し、レベル向上に取り組んでいる。 ・資格取得者には表彰制度を導入した。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・入居前より、ご家族と共にご本人と面談の機会を持つなどなじみの関係となるように努力をしています。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・入居前より、ご家族と共にご本人と面談の機会を持つなどなじみの関係となるように努力をしています。 ・入居後は、ご家族もご本人も安心して頂ける様に努力をすることをお伝えしています。 その上で、話していただける様な環境・関係を作る努力をしています。</p>		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居後ご家族、ご本人の希望を含めた必要な支援を暫定プランとして立案し説明の上2W実施してみます。2W後評価をして、ご家族と話し合い本プランを検討・立案と しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・入居してから2Wの間は、環境に慣れることを目標にしてケアスタッフからの情報を集める努力をします。 ・その情報を基にご家族と相談してケアプランの立案に繋がります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・入居者様の話すことに充分耳を傾けることに努力をしています。 ・入居者様の出来る力を活かして、食事・掃除・洗濯など家事を協力仕合って一緒に しています。 ・テレビを一緒に見たり、入居者様談笑の場に入って楽しむ場面を作っています。 ・その方だからこそできる事に対して、「すごいね！」など主役の場面を作っていま す。 ・入居者様の知恵を学んで活かしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・ご家族様との信頼関係を深める為に、ご本人の思い・様子、ご家族様の思いを把握できるようにスタッフ間での情報共有が出来る様に努力をしています。 ・管理者、ケアマネだけではなく担当者を中心にご家族とのコミュニケーションが取れる様に努力している。 ・ご家族から、気軽に相談を受けたり相談したりできる場面があります。 ・基本である御挨拶が常に感じ良く出来る様に努力しています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・ご家族の面会時、電話があった際には出来るだけ現状をお伝えする努力をしていま す。 ・ご面会の際には、くつろげる様な環境が提供出来る様に努力をしています。 ・ご家族からの情報は、十分把握してスタッフ全員で共有出来る様に努力していま す。 ・ご家族とお話する際には、お気持ちを共感し「話して良かった！」と思って頂ける様 に努力をしています。 ・ケアプランを把握し、ご家族の思い・要望を理解出来る様に努力をしています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・ご本人や、ご家族からなじみの関係の関わる情報が得られる様に努力していま す。 ・ご本人のなじみある場所を地図などを見ながら把握し、日常のコミュニケーションに活かしています。 ・なじみの場所へ外出の機会が持てる様に、ご家族の協力を得ながら行っています。 ・なじみの関係の方が御面会にいらした際には、ご本人と共に喜び歓迎出来る様に努力をしています。 またくつろいで、過ごせる環境を提供出来る様に努力しています。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・入居者様本位での関係が出来るように支援しています。 ・良い関係者同志、良くない者同志の関係を把握して支援出来る様に努力をしています。 ・食事は、可能な限り全員揃って召し上がって頂ける環境作りをしています。 ・関係にトラブルが起きた時には、スタッフが間に入り仲介をしています。また未然に防ぐ努力をしています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなったり退去した入居者様やそのご家族様の皆さんと交流があり、良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご家族に協力を得ながら、日常生活の中の話・行動・言動などから把握できる様に努力している。 ・スタッフと二人になる機会を利用して、二人だけのコミュニケーションから発見する努力をしている。 ・ケアプランの意向・思いを見て確認している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ご家族には、今までの生活歴を可能な限り協力を頂きながら情報収集をしている。 ・個人情報ファイルにある情報を見て確認している。 ・得た情報を基に、なじみのある生活の継続が出来るケアを目指している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・毎日のミーティング、介護記録から、その日の情報を中心に把握する努力をしている。 ・その日の関わりの中で声や、表情、顔色言動を観察して状況を把握できる様に努力をしている。 ・バイタル、食事、水分量、排泄状態を観察して健康状態の把握が出来る様に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・毎月のユニット会議の中で、全入居者様の気づきとケアプラン実施の評価を行っております。 ・スタッフの気づきを活かして、ご家族と相談し一緒にケアプランが立案できる様に努力しております。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・常に日常の変化を申し送りにて情報交換しています。 ・状況に応じて、プランを変更・評価して実施しています。 ・ご家族様には、そのつど状態の変化を報告して新たなプランの相談をしています。		・日常の気づきが、スタッフ間で飛び交う環境づくりの取り組みをしたいと思います。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の気づきについては、朝・夕の申し送りの中で報告を受け共有しつつプランに繋げています。		・個々の生活目標を把握して、目標達成の為にすべきことができ、その結果をスタッフが得て簡潔に記録できる様に、スキルアップに取組みをします。(個々のプランを把握出来ること、すべき内容を理解して実践できること、その結果を評価できる力を付けること)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	旬の行事を数多く行い、外出する機会も取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	困った事があれば民生委員の方や色々な公共機関に気軽に相談している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	事業所独自のサービスを重視しているが、入居者様やご家族様が希望された時には検討するが、現在要望はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと何かあれば互いに相談している。地域包括支援センター主催の研修に参加し交流を深めている。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>・個々のかかりつけ医療機関の看護職員とは、可能な限り情報を報告してアドバイスをいただいています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>・各ご家族様に受診の必要性を説明し、専門医とのつながりを作る努力をしています。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>・体調、身体状況に変化があった際には、連絡をして相談や医師に繋げて頂いています。</p> <p>・定期的に健康チェックに来て頂き、そのつど相談やアドバイスを頂いています。その結果スムーズ健康管理・医療活用に繋がっています。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>できる限り入院先に足を運び状況把握に努めるとともに、ご家族様医師看護師SWと話し合い情報交換と早期退院に向けての協議をしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化や終末期についてご家族様の意向を聞き、状況に応じ家族や医療機関と話し合う機会を設けている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>・終末期を迎えた方を病院からホームへ帰って来て頂き支援をしています。</p> <p>・担当医との連携を取り、ホームで可能な限り出来る事を協力のもと実践しています。</p> <p>・ご家族を含めた話し合いを密に行い、お気持ちの確認をしながら支援を続けています。</p>		<p>・ご家族とともに、終末期の迎え方を時期をみながら話し合いがもてる機会をつくりたいと思います。</p> <p>・ご家族と共にご本人を支え「私の人生は、最高だった！」と思ってもらえるように、信頼関係づくりに取組たいと思います。</p>

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・今現在そのような方は、いません。</p> <p>・体調の変化により入院にて、病院生活となった際には可能な限り早く帰りの環境に戻れる様に努力をしています。</p> <p>・スタッフ間でそのための話し合いを充分に行い迎えられる様に努力をしています。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>・特に、排泄ケア・入浴ケアにおいては、言葉づかいやケアの丁寧さ、気持ちの良さ、他者に目立たぬことを考えて支援しています。</p> <p>・入居者様の前では、個人情報の関わる会話をしない努力をしている。</p> <p>・リビング内での情報交換時、声のトーンなどを考慮しつつ個人把握は部屋番号で行っています。</p> <p>・個人情報に関わる全ての物を、施設外に持ち出ししないことを守っています。</p> <p>・介護記録は、入居者様から離れた場所で行います。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・生活の基本は、可能な限りご本人の思い・希望を尊重できるように努力しています。</p> <p>・個々の関わりなど認知症の状態に合わせられる様に、ミーティングを通して話合いの中改善しています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・入居者様を把握するために、ご本人やご家族からの情報をもとに追及しています。</p> <p>・料理、掃除、洗濯などご本人のすすんでやろうとすることを優先にいかしています。</p> <p>・新聞を見て、一緒にテレビ番組を選んだり、広告を見てメニューを考えたり、お天気を見ては外への外出を計画したり、個々のペースを大切にできる様に努力をしています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・遠方の入居者様が多く、なじみの美容室へ行くことは、難しいが決まった美容室を利用しなじみの関係づくりに努力しています。</p> <p>・洋服は、ご本人が選ぶことを基本に支援しています。</p> <p>・鏡を見て整容をして頂ける様に支援をしています。お化粧の習慣のある方には、外出や、行事の際、普段も含めて楽しんで頂ける様に支援しています。</p>		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回特別メニューとして、入居者の皆さんと食べたい物を決めて一緒に買いに行き一緒に準備して食事をする機会を作っています。 ・食事の支度をする担当、後片付けに関わる担当、買い物担当を其のつど変更しつつ楽しんでいただける様に努力しています。 ・その日のメニューで、嫌いな物・食べられない物に合わせて別メニューを準備しています。 		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・時々散歩しながら、近所のコンビニやスーパーに買い物にでかけます。 ・行事などでは、アルコールを準備して楽しんで頂きます。 ・希望があれば、晩酌を提供します。(現在は、希望なし) ・ティータイム時には、コーヒー・紅茶・ココア・昆布茶など希望を聞いて準備します。 		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄パターンを把握して、トイレでの排泄が出来る様に努力しています。 ・毎朝の下着交換と清拭をして気持ち良く起床できる様に心がけています。 ・入居者様によって、日中・夜間の使用するオムツ類を分けて不快な状態が避けられる様に支援しています。 		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴回数、曜日は決まっていますが、好みの時間帯、順番、湯の温度、つかる時間等、可能な限りご本人に合わせて行っています。 ・スタッフ全員が、好みを把握して可能な限り同じ対応が出来る様に努力しています。 ・入浴を拒否された場合には無理をしません。 		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力に合わせてお昼寝をして頂きます。 ・その方により、居室以外でもお好みの場所で休める環境を提供しています。 ・就寝時間も、各入居者様の体調や気分に合わせています。 ・スタッフの作業により、安眠を妨げることの無いように心がけています。 ・寝巻き、パジャマなどの着る習慣を大切に出来る様に努力しています。 (下着を脱ぐ、靴下をはいたまま、寝巻き形式であるなど) ・部屋の明かりにも気づかいを心がけています。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に対しての役割、楽しみ事、気晴らしの支援は、毎日の生活に取り入れ支援できるように努力しています。 ・スタッフ全員が把握して、支援出来る様に努力しています。 ・それが、困難になってきた場合には、毎月の会議の中で、検討する様にしています。 		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望者やご家族の思いを大切にして、少しの金額でも持てる様に努力しています。 近所に買い物に行く機会を作り、ご自分で選び会計をするまでを体験できる様にしています。 		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご本人の希望がある時には、それが実現できる様に最大限努力をしています。 週1回の買い物と一緒に出かけの機会を作っています。 ご家族の協力のもと外出の機会を作っています。 お天気の良い日には、季節に関わらず散歩の機会を作っています。 行事では外出の企画を立てています。 		<ul style="list-style-type: none"> 家の中にいたい人、外に出たい人それぞれを理解して喜んでもらえる支援を取り組みます。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> お墓参り、買い物、外出外泊などご家族様と一緒に出かけをしていただいている。また特に要望があれば個別に支援することもある。 行事の中に外出の支援も交えている。 		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望時には、電話をかける機会を作っています。 お手紙や、年賀状などを書くお気持ちを引き出せる様に努力をしています。 スタッフから、何かの用事でご家族に電話をした際には、ご本人ともお話が出来るチャンスを作っています。 		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 常にご家族様、ご本人にも、「いつでも遊びに来ていただいでください!」とお伝えしています。 ご訪問頂いた際には、スタッフ一同感じの良いごあいさつでのおで迎えが出来るように、しています。またお茶を出し、くつろいで過ごせる環境を提供しています。 ホームの行事にご招待をするなどで、楽しんで頂く機会を作っています。 		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身体拘束はしていない。 		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・鍵をかけないケアの実践しています。 ・スタッフ全員が、鍵をかけない理由を理解して実践しています。		
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・勤務スタッフは、入居者様の定時での所在確認を行っています。 (出勤時・休憩前後・退勤時) ・コールやセンサー音の確認を行っています。		・今以上に全スタッフの危機感を高め、それが持続して安全管理ができる様にチームワークで取り組みたいと思います。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・スタッフの管理としていますが、ハサミ・針など入居者様が必要な際にはそばで見守りしながら使用できるように取組をしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・事故防止のための取り組みは、年間の勉強会の中に取り入れて実施しています。 ・ヒヤリ・ハット報告を収集して、事故の防止に活かしています。 ・事故の再発防止のため、事故報告のあとは評価をして、現状の事故防止対策で良いのかを検討しています。 ・事故防止の為のマニュアルを作成しています。 ・会議の中でシュミレーションを含めた指導を行っています。		・火災訓練に対して、夜間帯を想定した訓練を実施したいと考えています。 ・窒息防止に対して、危険予知トレーニングに取り組むをしたいと考えています。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・新入職員の勉強会や、年間の勉強会の中に取り入れて取組をしています。 ・日頃の勤務の中で、急変や事故の恐れのある場合はそのつどイメージトレーニングをしながら指導しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・火災訓練は、年に2回実施されている。合わせて消防設備の使用法の指導もしています。 ・火災想定の中実際に、初期消火の訓練しています。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・特に転倒の危険性のある方に関しては、充分にご家族と話し合いの機会を持ち現状の危険性について理解して頂ける様に、努力しています。 ・危険性に対する取り組みについても、具体的に理解しやすい説明をするように努力をしています。 ・抑制をしないことの大切さを理解して頂ける様に説明をしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・毎朝バイタル測定を行い健康チェックを実践し、スタッフ間で情報を共有しています ・バイタルの異常、体調の変化があった際の報告を徹底しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・入居者様全員の内服薬を把握できる様に努力をしています。 ・新たな内服の処方があった際の情報は、申し送りやファイルなどで情報を得る努力をしています。 ・内服薬により、観察する内容についても申し送られた事を把握し実践しています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・水分量の把握に努め一日1500cc摂れる様に支援しています。 (10時にチェック・15時にチェック) ・好みを考えながら水分補給に努力をしています。 ・日に一回は、体操や歩行運動ができる様に取り組んでいます。 ・毎日の排便状況を把握できる様に努力しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・起床時・毎食後・就寝前のうがい、歯磨きを徹底しています。 ・個々にあった対応方法を問題が起きた時にも、検討し対応できる様に努力しています。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事量、水分量は、チェックしています。 ・水分量の把握に努め一日1500cc摂れる様に支援しています。 ・栄養士と必要に応じて意見交換をしています。		

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会を実施してスタッフ全員が実行できる様に努力しています。 ・手洗いとうがいを、実施しています。 ・その季節毎に、感染予防対策を励行出来る様にスタッフへの指導を行っています。 ・常にスタッフ間で、感染予防対策が正しく行われているかを評価し合える環境になる様に努力しています。 		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食材、冷蔵庫内のチェックが、正しく行われ、出来ているかどうかを、定期的に確認をしています。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関や施設入口には、ホームの名前らしく、春から秋には花を咲かせています。 ・玄関前や、建物の周りにベンチをおいて花や、畑をみながら寛げる環境を作っています。 ・玄関は、常に清潔感があるよう整理整頓に心がけています。 		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてテレビを消して静かな時間を作っています。スタッフの行動にも心配りが出来る様に指導しています。(声、足音、物音) ・洗濯物を干していたり、くつろぎスペースを置いたり、好みの座布団を置いたりしています。 ・季節感を感じて頂く為に、花を飾ったり、大きな窓の外(東西)のを眺める機会を作ったり、季節感のある飾りをしたり工夫しています。 		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりが非常に難しい状態にありますが、定期的に評価しながら、落ち着ける場所や空間を提供ができる様に努力している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の思いを受け止められる様に、また入居者様同志もわかり合える様に日々の生活の中から追求できる様にスタッフのスキルアップの為の取り組みをします。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限りなじみのある生活用品をお持ちいただき、なじみの物に囲まれて生活が出来ると努力しています。ご家族の方にも、そのことの大切さや必要性をお話しています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・新たな入居にあたっては、なじみのある生活の継続を大切に取組みます。 ・現在の入居者のかたの生活においては、ご家族との定期的な面談を計画し毎日の生活の居心地の良さを追求できる様に取組みます。

21.11.1 Bユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気にも努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・AM掃除をする際や、午後窓を開けて換気を行っています。通常の設定温度、湿度を確認しています。 ・排泄ケア後のおむつ関係は、新聞にしっかり包み処理しています。それに合わせ居室の汚物バケツに置かず、一回毎処理することとしています。また排泄ケア後の換気、消臭スプレー等の利用にて臭い対策に努力しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・歩行の出来る方に対しては、可能な限りご自分の力を活かし歩行して頂くように支援しています。(車椅子の利用は控える) ・転倒や、ねん挫・膝折れ等怪我に対する危険性に対してのプランをしっかりと立案して、周知して実施しています。		・入居者様ほとんどが転倒のリスクが高くなっている傾向があること、身体を動かすことに意欲の低下があること、以上のことについて、あえて体操や運動の機会をだけでなく日常生活の中で今以上身体機能を活かす機会を可能な限り増やせる取組をします。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・個々の出来ること、出来ないことを明らかにして出来ないことにタイミングの良い支援が出来る様に工夫をしています。 ・認知症の進行に伴い変化があった際には、そのつど関わり方を変更してスタッフ全員が把握して関わることができる様に努力しています。		・日常の中で、一日一回は「私は、これが出来るんだ。」と自信や生きがいを感じる瞬間を増やして行ける様に取り組みます。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・春夏秋は、畑を利用した活動や散歩・野外でのおやつ・食事など出来る限り建物外で楽しんで頂ける様に努力しています。 ・ベランダでは、小鳥の餌小屋を設置して餌を準備したりできる楽しみを作っています。		

. サービスの成果に関する項目		Bユニット
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		Bユニット
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者の皆様が、いつもリビングが好きで寛いでいます。入居者様もスタッフも仲の良く笑顔あふれるグループホームです。